ワンダーフォーゲル部

■ 1953年（昭和28年）公認

部員数 21名

部長
益田朋幸
文学学術院
教授

2025年はワンダーフォーゲル部にとって苦難の年でした。ワンゲル活動に必須である計画性、危機管理、瞬時の的確な判断などが機能したのか、疑問に思わざるを得ません。天候などの自然の状況や、不可避の事故によるミスではなく、我々自らが起こした失敗でした。

しかしワンゲル活動に同様に必要な、「失敗を反省し、今後に生かす」ことは、これからの我々の課題であります。君たちの門出を祝しつつ、4年間のワンゲル活動で培った精神を、社会人として実践してくれることを願います。君たちの新たな人生はこれから始まり、長く続いてゆきます。

監督
中島一彦

76代4名、卒部おめでとう。76代の年間方針は「鼓動」。ワンダーフォーゲル部に入部したのは、この部の活動自体に魅力を感じたからであり、入部時の気持ちを大切にして、鼓動が高まる活動を全部員で満喫したいというのがこの年間方針に込めた思いだ。76代活動のクライマックスの場として選んだのは、スウェーデン、クングスレーデンでの一か月に渡る長期トレッキング。この部の魅力は、「全部員参加の合宿だ」との強い信念の下、幾多の困難にも屈せず入部したばかりの新人8名を一人も取り残すことなく、19人全員参加で見事、全行程完遂。76代4名が、今後、どこで、何に、鼓動を感じるのか、卒部後の今後の成長・活躍が今から楽しみで仕方ない。

主将
小田　直
スポーツ科学研究科
逗子開成

76代は年間方針「鼓動」を掲げ、「楽しむには何ができるか」を問い続けました。登山活動では温泉巡りや修験道歩きといったテーマを取り入れ、早稲田ワンゲルではなかった山岳活動の楽しみ方を見つけました。そして集大成となる夏合宿では部内26年ぶりとなる部員全員での海外合宿に挑戦しました。スウェーデン・Kungsledenを舞台に、3週間かけて300kmを歩き続けました。2隊に分かれそれぞれ異なる景色を味わいながら最北の地Abiskoで合流を果たした経験は、生涯忘れることはないと思います。決して楽な挑戦ではありませんでしたが、この経験から得たすべての教訓を忘れることなく、これからの人生においても挑戦を恐れず歩み続けたいと思います。

主務
中村公亮
社会科学部
千葉

この1年、部に「功績」を残せたかは分からない。ただ純粋に尽くしたつもりだが、確かな実感はなく、最後は迷惑もかけてしまった。

だが、もし人が残せる最大のものが「結果」ではなく、その「真剣な姿勢」そのものなのだとしたら。

私は、この部という場所で「誠実であろう」ともがいた。不器用で失敗もしたが、自分なりに必死に向き合ったつもりだ。

後輩に何かを渡せるとすれば、それは私が悩み、格闘した「姿」そのものかもしれない。何も知らなかった私に新たな世界を見せてくれた部への感謝。この気持ちを胸に過ごした「日々」こそが、私が残せる唯一のものだと信じたい。

本年度試合戦績

成績（早稲田勝利：○、引き分け△、敗戦●）

◇**76代新歓合宿**　（5月9日～11日）
完遂

◇**76代錬成合宿甲斐武蔵健脚隊**　（6月8日～14日）
完遂

◇**76代錬成合宿霧ヶ峰八ヶ岳北上隊**　（6月16日～21日）
一部計画縮小

◇**76代夏合宿**　（7月31日～8月31日）
完遂